

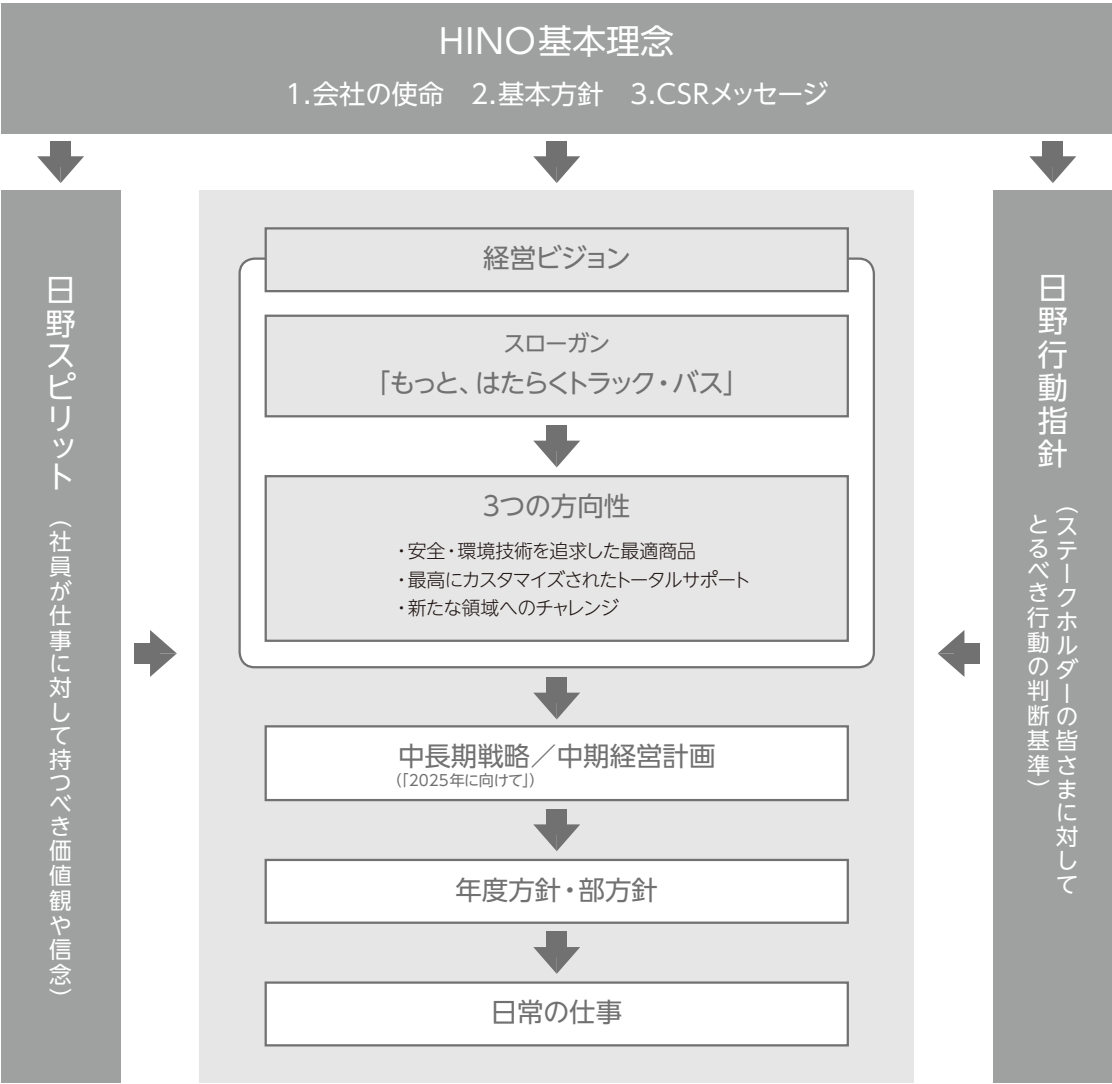
HINO基本理念と目指す方向性

HINO基本理念

日野自動車は、2007年7月にこれまで掲げてきた「企業理念」をCSRの観点から見直し、「HINO基本理念」を策定しました。そして近年、自動車業界が迎えている未だかつてない急激な変化に対して、世界中の「チーム日野」一人ひとりが心をひとつにするために、スローガンと3つの方向性を掲げ、加えて2025年に向けた中長期の方向性や取り組みを新たに掲げるなど、さまざまな価値の創造に取り組んでいます。

目指す方向性：スローガンと3つの方向性

トラック・バスに対するお客様や社会からの期待は、「地球温暖化」への対策、昨今のドライバー不足をはじめとした物流・人流を取り巻く社会課題への対応、安全ニーズなど、ますます高まっています。このような中、3つの方向性で、日野が提供するトラック・バスを「もっと、はたらく」存在にすることにより、お客様のビジネスを支え、社会に貢献し、日野の持続的な成長を実現していきます。



HINO基本理念：会社の使命

人、そして物の移動を支え、
豊かで住みよい世界と未来に貢献する

日野自動車のスローガン

「もっと、はたらくトラック・バス」

日野自動車が目指す3つの方向性



「HINO基本理念」はこちら 「日野行動指針」はこちら
「2025年に向けて」(2018年10月公表の、2025年に向けた中長期の方向性と取り組み)はこちら



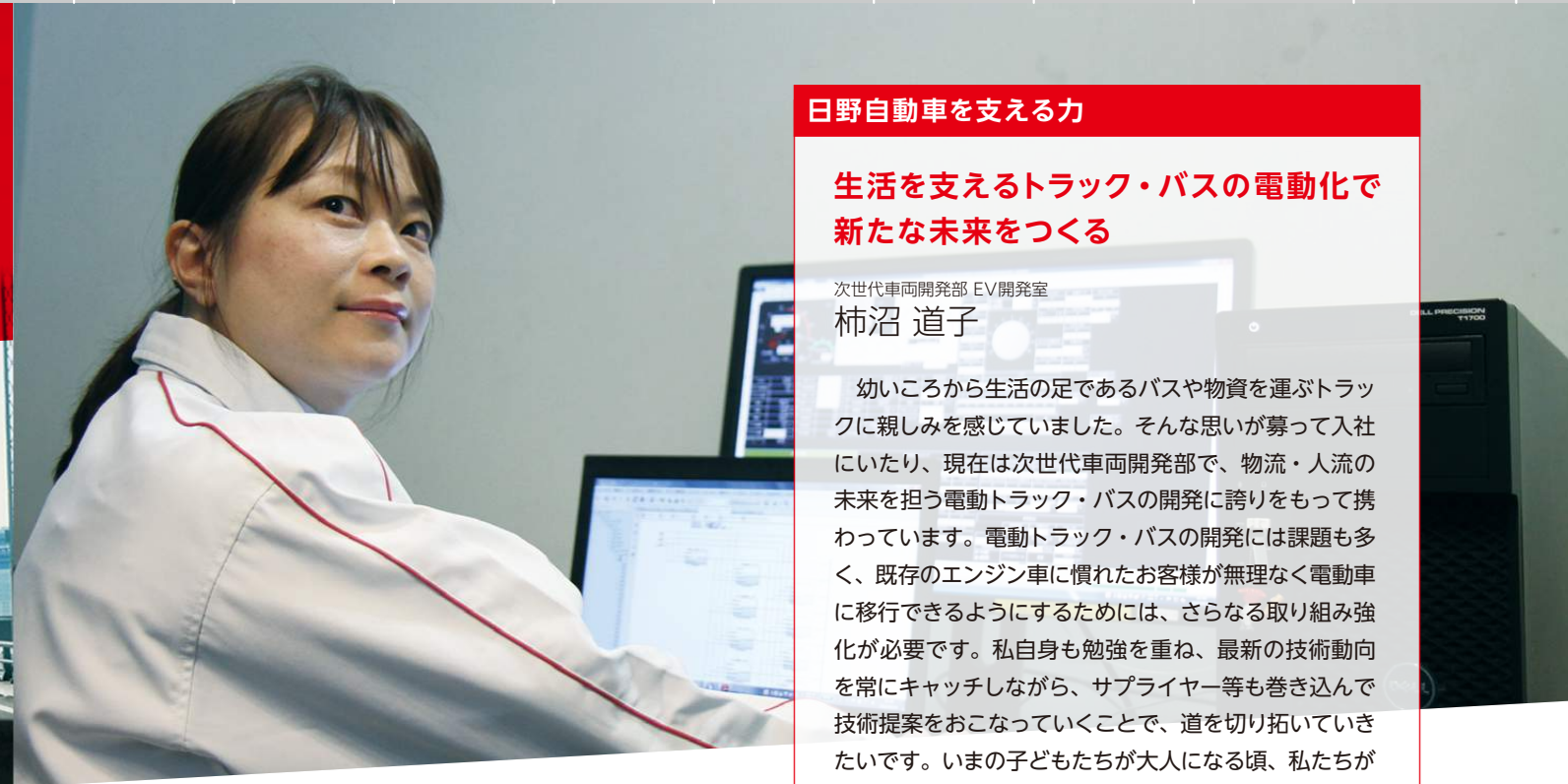
3つの方向性

安全・環境技術を追求した最適商品

安全な交通社会実現のための安全技術の向上と地球温暖化防止に向けた環境技術の確立は、自動車業界が長期的な展望のもとに取り組むべき重要な課題です。日野自動車は、安全・環境技術のさらなる向上を前提に商品の品質、耐久性、信頼性を磨き上げ、グローバル市場における多様なお客様のニーズに応える「最適商品」を柔軟かつタイムリーに提供していくことで、社会課題の解決に貢献していきます。



PCS® (Pre-Crash Safety / 衝突被害軽減ブレーキ)
ミリ波レーダーと画像センサーにより前方の車両や歩行者を検知し、自動でブレーキを作動させて衝突被害を軽減するシステム



日野自動車を支える力

生活を支えるトラック・バスの電動化で新たな未来をつくる

次世代車両開発部 EV開発室
柿沼 道子

幼いころから生活の足であるバスや物資を運ぶトラックに親しみを感じていました。そんな思いが募って入社にいたり、現在は次世代車両開発部で、物流・人流の未来を担う電動トラック・バスの開発に誇りをもって携わっています。電動トラック・バスの開発には課題も多く、既存のエンジン車に慣れたお客様が無理なく電動車に移行できるようにするためには、さらなる取り組み強化が必要です。私自身も勉強を重ね、最新の技術動向を常にキャッチしながら、サプライヤー等も巻き込んで技術提案をおこなっていくことで、道を切り拓いていきたいです。いまの子どもたちが大人になる頃、私たちが開発した電動トラック・バスが世の中を支えている——そんなことを夢見て、日々仕事に取り組んでいます。

「交通事故死傷者ゼロ」のために

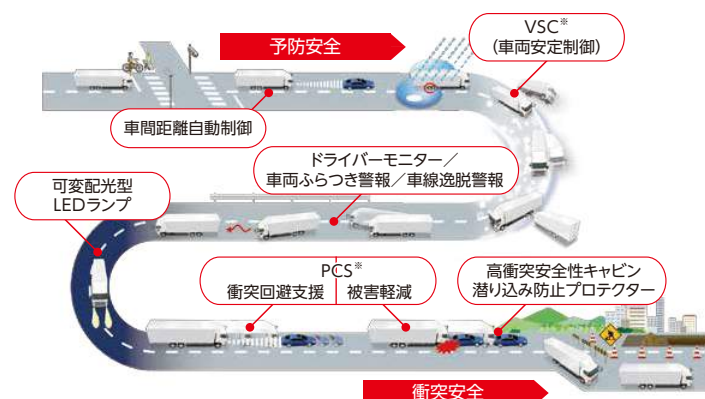
ひとたび事故が起きますと、被害が大きくなりやすいトラック、そして多くの命を預かるバス。「安全」はトラック・バスメーカーとしての重要な責務であり、日野自動車は「トラック・バスの交通事故死傷者ゼロ」の安全な社会の実現に向けて、多様な側面から安全性の向上に努めています。

安全運転のための運行管理から事故を起こさないための予防安全、もしもの時の衝突安全までをサポートする「トータルセーフティ」の考えのもと、それぞれの段階において安全性を高めるための取り組みを進めています。商品面では、ドライバーの疲労軽減や、集中力維持、車両の挙動安定、衝突回避、被害軽減といった観点から、安全装備を開発・実用化しています。

また、開発した安全技術を広く普及させることも重要と考え、実用化した技術はいち早く商品に

搭載するとともに標準装備化を進めています。さらには、既販車への後付け安全装備充実にも力を入れるなど、車両のライフサイクルを通じて多様なニーズに対応していきます。

- すべての道路利用者を念頭に置き、あらゆる場面での安全技術を開発



※VSC (Vehicle Stability Control)、PCS (Pre-Crash Safety) はトヨタ自動車 (株) の登録商標です

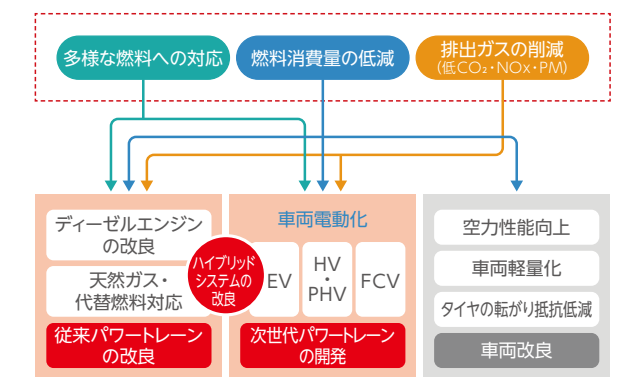
環境技術のフロントランナーとして

日野自動車は、環境問題が注目される以前より、排出ガスのクリーン化や燃費の改善などの技術革新を重ねてきました。各国の排出ガス規制に対応した商品の開発・提供はもちろんのこと、次世代車については将来的にどのようなエネルギーが主流になっても対応できるよう、実績のあるハイブリッド技術をベースに、プラグイン・ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車など、目的に応じた幅広い分野にわたる技術の研究・開発を続けています。例えば、1991年には世界初のハイブリッド市販車となる大型路線ハイブリッドバスを発売。2012年には、東京都羽村市にて、日本初のEV (電気自動車) 路線バス実用運行として、小型EVバス「ポンチョEV」が採用されています。

2017年10月、私たちは2050年に向けて製品のライフサイクル全般における環境負荷を極限

まで削減すべく、高い目標を掲げた「日野環境チャレンジ2050」を公表しました。今後も生産現場におけるものづくり革新やIoT技術などを組み合わせた物流革新に乗り出すことで、環境技術のフロントランナーとして時代を切り拓いていきます。

- 目的に応じた幅広い技術の研究・開発





3つの方向性 最高にカスタマイズされた トータルサポート

日野自動車は、単にトラックやバスの完成品を提供するだけでなく、それぞれの車両に求められる多様なニーズに応え、提供した後も見守り続ける「トータルサポート」の推進により、世界中のお客様のビジネスを支えています。私たちが世に送り出すトラック・バスが、トータルサポートを通じて“もっと、はたらく”存在になっていくことで、より多くの社会課題の解決につながるものと考えています。



日野自動車を支える力

好きな整備の仕事に打ち込みながら、 夢のダカールラリーの舞台を目指す

東京日野自動車株式会社
Free Mechanic 第12期生
梅本 吉隆

幼いころ、バスやトラックなど大きな乗り物が大好きでした。一度は大学に進学したものの、「やりたいことをやってみよう」と一念発起。在学中に夜間の整備学校に通って、メカニックの資格を取得しました。

入社して7年、トータルサポートを担う一員としての自覚が強まるなかで、お客様の仕事を支え、より一層お客様の車を大切にしたいという思いが強まっています。車の使われ方を見ながら、その時々最適な提案をすることをモットーに、いまでも好きな仕事に打ち込んでいます。

車の進化とともに整備に求められるものも変わりつつあり、学ぶべきことは尽きません。これからも日々現場で腕を磨きながら、チーム日野のメカニックとしてダカールラリーに参加することを夢見ています。

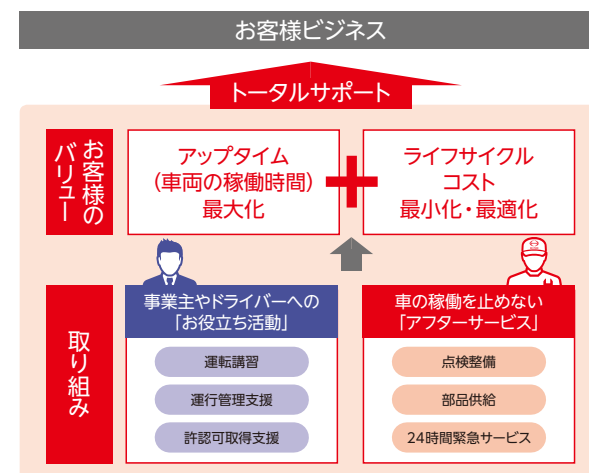
トラック・バス1台1台の稼働をきめ細かくサポート

日野自動車では、トラック・バスがお客様のものでしっかりと働き続け、その役割を全うできるように車両の稼働を全面的にサポートしています。加えて、お客様が直面している課題に真摯に向き合い、私たちならではのソリューションを提供することで「最高にカスタマイズされたトータルサポート」を実現すべく、取り組んでいます。最適商品の提供はもちろん、適切な時期の部品交換などにより故障を未然に防ぐ予防整備、万一の時の緊急対応や迅速な修理、より安全でエコな運行に導く運転講習や運行管理支援といった「お役立ち活動」を通じて、お客様の車両1台1台を最適な状態で維持し、社会のインフラである輸送・交通を支えています。

お客様車両の「アップタイム(稼働時間)の最大化」、「ライフサイクルコストの最小化・最適

化」を目指すことで、お客様のビジネスを支え続ける。私たちはこの一貫した姿勢を通じてお客様からの厚い信頼を勝ち取り、トータルサポートを世界中で深化させていきます。

●お客様ビジネスを支える「トータルサポート」



ICTを活用した「HINO CONNECT」

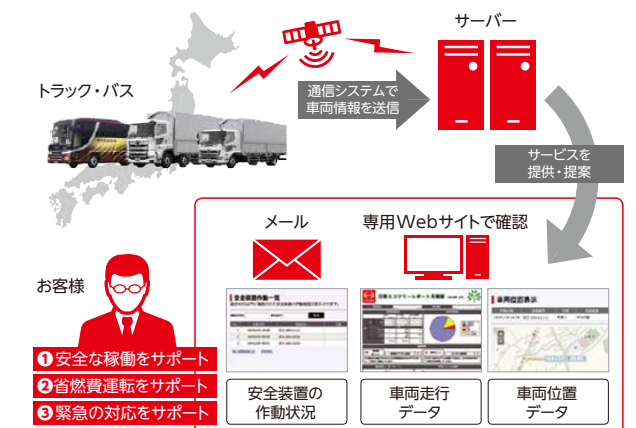
車両に搭載した通信端末を通じてお客様と日野自動車をつなぐ「HINO CONNECT」は、各種お客様向け通知機能やWEB閲覧機能をそなえ、トラック・バスの正常な稼働を支えるコミュニケーションツールです。例えば、安全装置(PCS^{*1}・ドライバーモニター・EDSS^{*2})が作動した場合、お客様へ直接メールで連絡させていただくほか、専用WEBサイトで車両の安全装置の作動位置や時間などの状況確認ができるなど、お客様車両の安全運行を支援します。また、車両走行データなどの情報は一カ月ごとにレポートとしてまとめ、省燃費運転や安全運転のガイドとして提供。さらに収集された車両情報は予防整備の提案に活かすなど、日常の運行から緊急時の対応まで、お客様のビジネスを強力にサポートしています。

今後もさまざまなニーズや社会課題を見据えて

順次機能の拡充を進め、より安心・安全かつ経済的なトラック・バスの運行の実現に貢献していきます。

※1 PCSはトヨタ自動車(株)の登録商標です
※2 EDSS(Emergency Driving Stop System) : ドライバー異常時対応システム

●「HINO CONNECT」





3つの方向性

新たな領域へのチャレンジ

社会の変容に伴い、トラック・バスにまつわる社会課題は多様化しています。自動車業界全体が抱える「地球温暖化」に向けた対策をはじめ、eコマースの拡大に伴うドライバー不足や長時間勤務による事故などさまざまな物流を取り巻く問題が叫ばれています。さらに高齢者による交通事故の増加、移動手段が不足する過疎地での移動困難者の増加への対策など、課題は多岐にわたります。日野自動車は、トラック・バスメーカーとして物流や交通システム全体の課題に踏み込む“新たな領域へのチャレンジ”を通じて、社会課題の解決を目指します。



日野自動車を支える力

社会の課題解決を目指し会社の礎となる取り組みに挑む

新事業企画部 江口 真衣子

いつか見たダカールラリーの映像で、一つの目標に向かって皆が力を合わせる姿に感動し、私も一緒に働いてみたいと感じました。新事業企画部には産休後に配属され、新たな領域にチャレンジする職場に当時のダカールラリーに挑んだ日野の姿を重ね合わせています。答えのないその先を見据える困難な仕事ではありますが、手掛けたことが未来の当社の礎となり、いずれは世界の物流課題の解決につながることを目指しています。

新事業企画部 萩原 大貴

新事業企画部は新設の部署ですが、目の前の物流の課題に早急に対応するべく新たに会社を立ち上げるなど、そのスピード感にベンチャービジネスに挑んでいるような感覚を覚えます。課題は山積みですが、規制の厳しい日本で解決することで、いずれは海外でも展開できるはず。そう思うと、大きなやりがいを感じます。日々、新しいことに出会えるいまの環境に感謝しながら、自分自身も急速に成長していきたいです。

物流や交通の未来を見据え、さまざまな取り組みを推進

ドライバー不足、移動困難者の増加や輸送効率の悪化といった社会問題に対する有効な対策として、トラック・バスの自動運転などが挙げられます。

現在、日野自動車では、このような高度運転支援技術の開発を積極的に進めており、高速道路でのトラック隊列走行やBRT（バス高速輸送システム）の早期実現に向けて実証実験を重ねています。

なかでも重要なチャレンジと考えているのが、ドライバー・車両・荷物情報を高度に活用した安心・安全な物流環境と高積載率を実現する「輸送ソリューション」です。具体的には「1台でより多くの荷物を運ぶ」「少ないドライバーで多くの荷物を運ぶ」ための仕組みづくり。従来のように荷主が個々にトラックを手配し低積載率のまま輸送

することなく、積載率を100%に近づける物流マッチングサービスなど、輸送価値の多様化に応えるためのさまざまなアプローチを検討しています。その他にも、スマートフォン等のモバイル端末で、バスを利用したいときに呼べる「オンデマンドバス」など、交通システムそのものを見直し、人の移動を支える取り組みも視野に入れています。

日野自動車が、一連のチャレンジを通じて実現したいのは、あらゆるステークホルダーにとって価値ある新しい物流と交通の形です。それは、これまで私たちが大切に磨き上げてきたトータルサポートを、お客様から社会へと領域を広げることで初めて可能になるものだと考えています。

日野がえがく、物流・交通の未来

